

「花王のプラスチック包装容器への取組み」



花王株式会社
ESG部門 ESG活動推進部長 **金子 洋平**

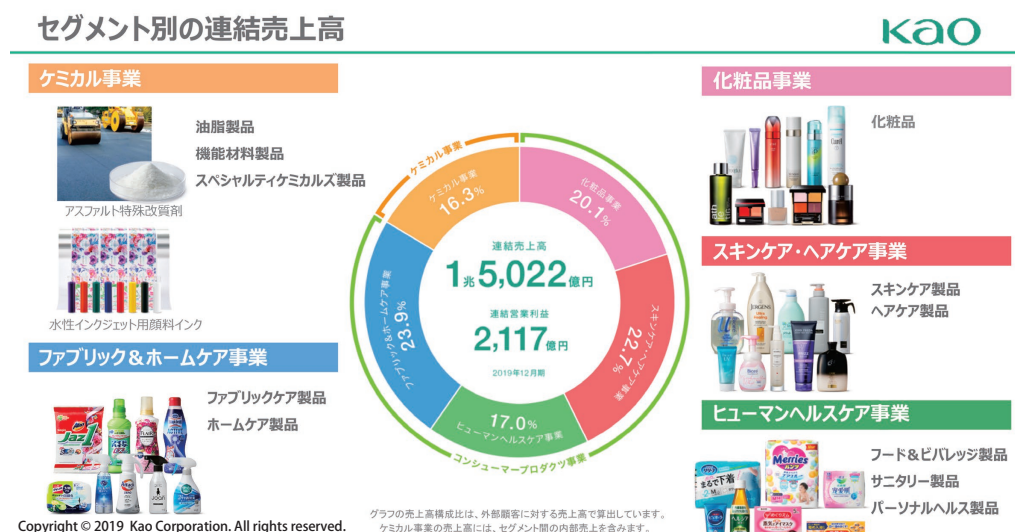
花王について

「花王のプラスチック包装容器への取組み」について紹介したい。

1887年創業の花王は、多くの人に石鹸を使って清潔になっていただきたいという思いから設立された会社である。顔を洗える高品質な石鹸ということで「花王（かおう）」という社名になったということである。この石鹸が私たちの事業の原点である。

現在の事業は、体を美しくするものとして「化粧品」「スキンケア・ヘアケア」「ヒューマンヘルスケア」の分野、家庭、衣類などを洗浄する「ファブリック&ホームケア」、洗浄する技術を幅広い産業分野で使っていただく「ケミカル」事業の5つの事業を手がけている（図表4-1）。

図表4-1



プラスチック使用の現状

現在、花王製品の包装容器の大部分でプラスチックを使用している。包装容器は、運搬時における内容物の保護や品質の保持、成分や使い方などのさまざまな情報提供、さらには使い勝手の向上など、製品の一部としての重要な役割・機能を担っている。これらの役割を担う容器として、プラスチックは軽くて汎用性があり便利な素材である。その一方で、地球環境への影響の大きさの観点から、プラスチック資源の削減に努めている。

包装容器への取り組み

花王の取り組みの基本は、「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3Rに「リプレース」を加えた4つのRの考え方である。「リプレース」は、石油由来のプラスチックから、より低炭素で再生可能な植物由来など、持続可能な原料への転換を図ることである。4つのRの中でも、花王は特に「リデュース（減らす）」「リユース（再利用する）」に力を入れている（図表4-2）。

「リデュース」は、製品のコンパクト化である。内容物の濃縮化による容器の小型化でプラスチックの使用量を削減する。「リユース」は、つめかえ・つけかえ製品比率の増加である。つめかえ・つけかえ製品を開発し普及し、本体容器を何度も使用することで、プラスチックの使用量を大幅に削減す

図表4-2



Copyright © 2019 Kao Corporation. All rights reserved.

図表 4－3

プラスチック樹脂量削減の取り組み Reduce

kao

製品のコンパクト化



詰め替え、付け替え製品



容器の樹脂量削減



Copyright © 2019 Kao Corporation. All rights reserved.

る。また、より少ないプラスチック量で機能を確保できるよう形状の工夫も続けている（図表 4－3）。

在来品の本体ボトルに比べると、濃縮率の高い製品の容器は4割ほど、つめかえ製品になるとさらに6分の1程度の重量になり、プラスチックの使用量を10分の1程度に削減できる（図表 4－4）。ボリュームで見ると、同じ

図表 4－4

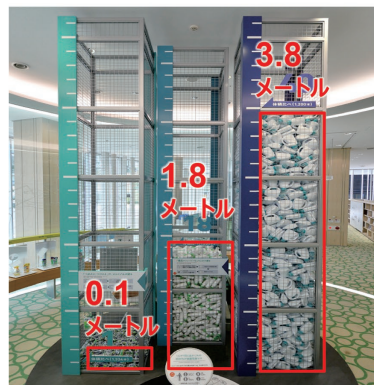
レフィル化（詰め替え）・コンパクト化の効果

kao

詰め替え用製品 コンパクト化製品 在来品



Package Weight (Ratio)	7	41	100
Package Volume (Ratio)	2.5	45	100



詰め替え用製品 コンパクト化製品 在来品
1200個の容器の容量比較
(100世帯が1ヶ月1本使用と仮定)

花王エコラボミュージアムの展示

Copyright © 2019 Kao Corporation. All rights reserved.

1200 個の容器を積み上げた場合、従来型の本体ボトルが 3.8 メートルの高さになるのに対して、つめかえ製品の場合はコンパクトにできるので、10 センチぐらいで済んでしまう。このくらい数字的なインパクトがあるので、こういった活動を積極的に進めている。

容器のコンパクト化やつめかえ・つけかえを行わなければ、プラスチックを年間約 12 万トン使う推算だが、実際は 3 万トン程度で済んでおり削減効果は明らかである（図表 4－5）。おかげさまでこの 20 年間で私どものビジネスは大きく成長しているが、プラスチックの使用量を増やすことなく容器をつくることができている。

プラスチック使用量の削減だけではなく、使いやすさも追求している。商品によって工夫して使いやすい形にしているが、それでもつめかえる際に「このあたりが切りづらい」「手がぬれていたら切りづらい」「ちょっとこぼしてしまう」など、まだまだご不満もあると思う。いろいろな形で一步一步工夫をしていきたい。

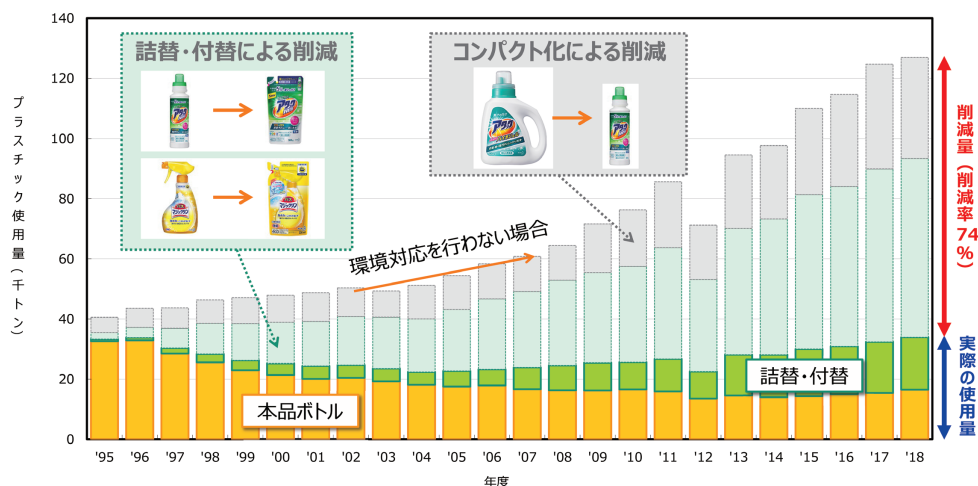
2016 年には、環境への配慮と使いやすさを両立したつめかえ容器「ラクラク eco パック」を開発。注ぎ口が真ん中にあることにより、つめかえやすくなっている（図表 4－6）。

こうした努力は花王だけではなく、業界全体で取り組んできたものである。日本石鹼洗剤工業界の調べによると、1995 年から、8 つの商品カテゴリー

図表 4－5

プラスチック使用量削減効果（詰替え・付替え製品のあるカテゴリー）

KAO



Copyright © 2019 Kao Corporation. All rights reserved.

図表 4－6

さまざまな詰め替え商品

KAO

製品の特長にあわせて、さまざまな詰め替え商品を開発してきました。



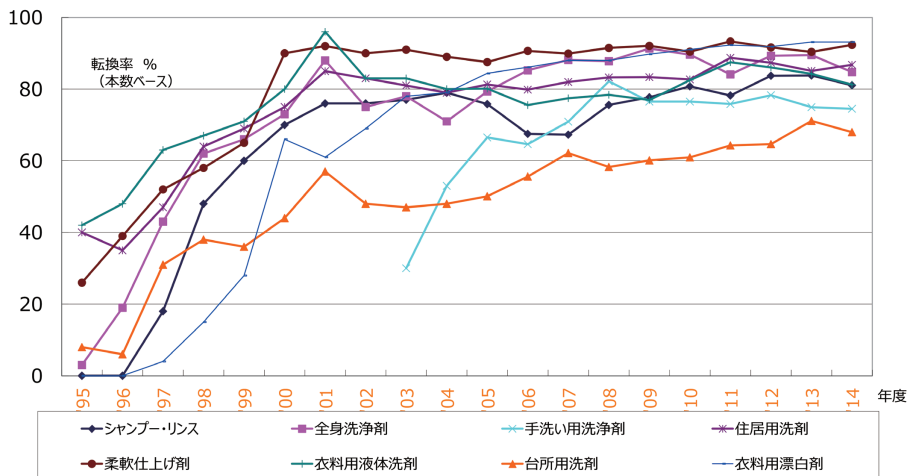
Copyright © 2019 Kao Corporation. All rights reserved.

すべてにおいてつめかえが普及している（図表 4－7）。私たちメーカー側も工夫してきたが、消費者の皆さまがつめかえ製品を手にとっていただいたからこそその結果であると思っている。

図表 4－7

詰め替え商品への転換率（日本石鹼洗剤工業会）

KAO



Copyright © 2019 Kao Corporation. All rights reserved.

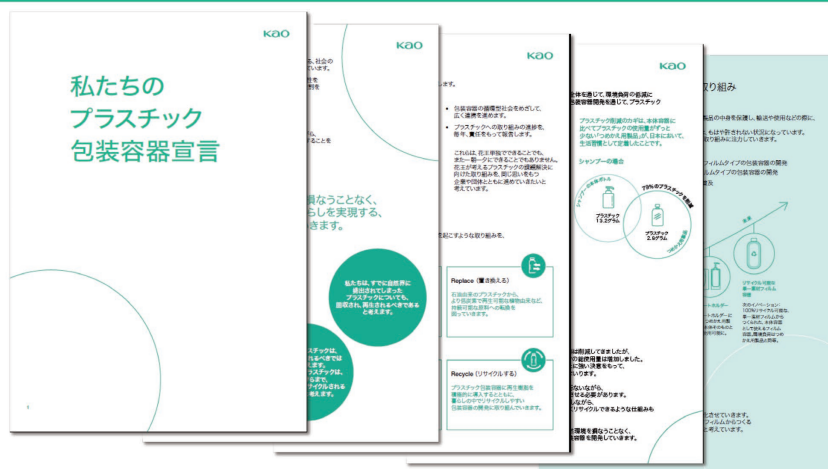
プラスチック包装容器宣言

花王は2018年に「私たちのプラスチック包装容器宣言」を発表し（図表4-8）、自然環境を損なうことなく、人々の心豊かな暮らしを実現する革新的な提案を目指すことを宣言した。私たちが目指す姿（図表4-9）として①「使用するプラスチックの量を、地球が受容できる範囲にとどめるべき

図表4-8

私たちのプラスチック包装容器宣言

KAO



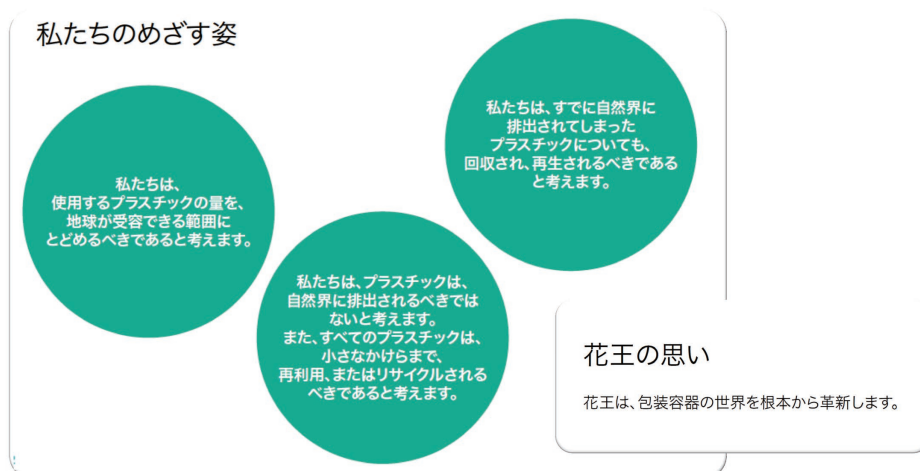
Copyright © 2019 Kao Corporation. All rights reserved.

2018.10.29

図表4-9

私たちのめざす姿と花王の思い

KAO



Copyright © 2019 Kao Corporation. All rights reserved.

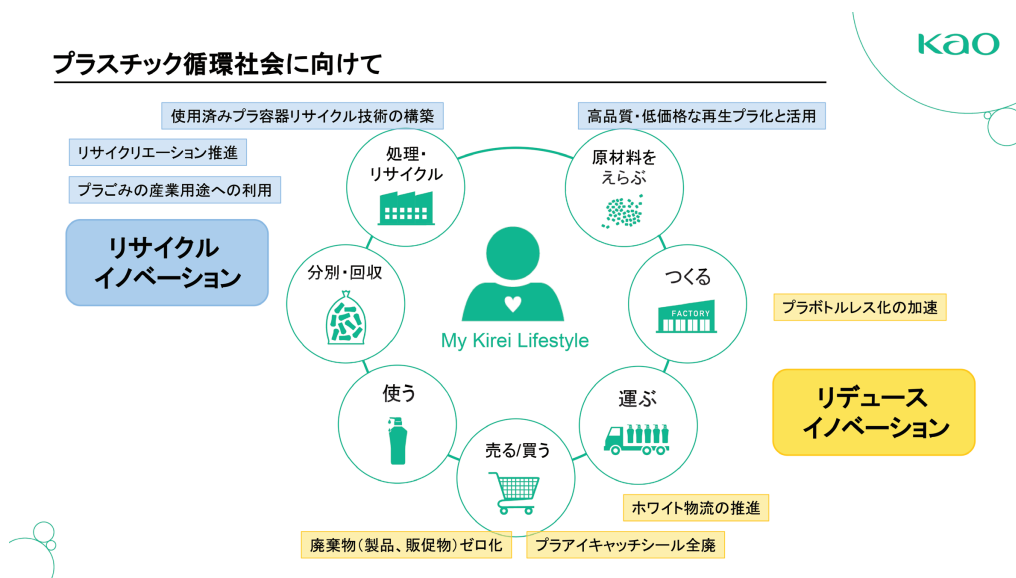
である」②「プラスチックは自然界に排出されるべきでなく、また、全てのプラスチックは小さなかけらまで再利用されるべきである」③「既に自然に排出されたプラスチックについても回収、再生されるべきである」という思いで、包装容器の世界を根本から革新していきたいと考えている。

プラスチック循環社会の実現に向けて、原料を選ぶところから処理・リサイクルに至る製品のライフサイクルの視点で「リデュースイノベーション」「リサイクルイノベーション」に注力していきたい（図表4－10）。

リデュースの取組みとして「ラクラク eco パック」を紹介したが、新たなチャレンジとして、つめかえの手間が要らず繰り返し使える「スマートホルダー[®]」、フックと吐出部の装着による「吊り下げ使用」といった新しいフィルム容器活用の提案を通じた「プラスチックボトルレス化の加速」に取り組んでいる。また、つめかえ製品はプラスチックの使用量が本体ボトルの6分の1ほどのため、形状が不安定であることからそのまま使用するには不適であるが、フィルム容器の外側に空気を入れて膨らませ自立させることで、本体容器のように使用することができる（図表4－11）。こうした容器の提案も積極的に推進していく。

一方、つめかえ製品の容器（フィルム容器）のフィルムは、多成分の素材を重ねてつくられた材質でできており、モノマテリアルではないためリサイクルに不向きである。また内容物が付着していることもあり、分別・回収さ

図表4－10



図表4－11

新つめかえパウチ(BLP)の活用、新フィルム容器によるプラボトルレス化の加速 **kao**



れた後にほとんどがケミカルリサイクル、サーマルリサイクルに回っている現実がある。プラスチックは減らしているが、マテリアルリサイクルができていないことが大きな課題だと思っている。

その課題に対して私どもは、全てのフィルム容器を無駄にしないという思いで、使い終えたものに技術やさまざまな人の知恵・アイデアを加え、新たな価値を生み出す「リサイクリエーション」という考え方を提案し、地域のみなさまといっしょにその価値の検証を始めている（図表4－12）。現在、プラスチック改質技術を利用し、フィルム容器からブロックが製造できている。また、地域の皆さまから洗剤やシャンプーなどの使用済みの詰めかえパックを回収、ブロックとしてお返しをし、新しい町づくりや暮らしづくりに役立てていただいている。子どもたちにブロックで遊んでもらい、「みんなが集めた使用済みの容器はごみではなくて資源なんだよ」とわかってもらうことにも役立てている。

さらなる環境負荷低減をめざし、多くの方々のお知恵を拝借しながら、100%リサイクル可能な単一フィルム容器の開発など、プラスチック容器の完全リサイクル化を目指した取り組みを続けていく。

これからも花王は、これまでの企業活動の中で培ってきた“よきモノづくり”の思想を、ESG視点でのよきモノづくりへと高め、環境や社会に配慮した取り組みをより一層強化していく。

図表4－12

すべてのフィルム容器を無駄にしない

kao



無限大の可能性を持つクリエイションツール

現在、社会実装の実験中

Copyright © 2019 Kao Corporation. All rights reserved.

